

① 生活環境について

快適な住環境を整備することは、住民が文化的な生活をおくる上での土台であり、ひいては本町への移住、定住を促進する上でも重要な対策であると考えます。そうした観点から住環境の向上について質問します。

- (1) 不妊去勢手術を施していない野良猫が、住宅地内で仔猫を出産する例があります。これを放置すると野良猫の増殖を招きかねず、殺処分の抑制と住環境の面から対策が必要と思われまます。また、糞害に苦慮しているとの住民の声も耳にします。野良猫の対応や現状はどのようになっていますか。
- (2) 動物愛護と殺処分の減少を目的として地域猫活動が取り組まれています。一定の効果も出ていると思われまますが、現状はどのようになっていますか。
- (3) プラスチックごみの対策が世界的な課題となっています。特にマイクロプラスチックの対策が課題となっていますが、人工芝の劣化もその要因となっています。本町の公共施設での人工芝の使用状況と今後の方針はどうなっていますか。
- (4) アメリカではグリホサート系除草剤の発癌性めぐり敗訴する例が3件（5月14日時点）と増加傾向にあります。国内でもグリホサート型除草剤を使わないとした自治体や、公共施設での使用を控える動きなども始まっています。世界と国内の流れを考えると、本町も先んじて手を打つ必要があるのではないかと考えまますが見解を伺います。

② 成人の発達障害について

ここ20年くらいの間には発達障害という概念が一般化し、子どもの発達障害については一定のケアがなされるようになってきました。

一方、成人については、本人も周囲も発達障害の知識やケアのあり方についての情報が十分ではなく、そのことに起因する地域活動（自治会活動など）や、人間関係のトラブルにつながり、本人は「生きづらさ」に悩む場合も少なくないとされています。

特に自閉症スペクトラム障害（ASD）や、注意欠陥・多動性障害（ADHD）について、その特性を相互に理解することで、差別や偏見をなくすことにつながるのではないかと考えまます。そのために、行政も理解促進を図ることが、互いを尊重しあい、暮らしやすい住環境につながると考え以下を質問いたします。

- (1) 本町で成人期の発達障害についての対応はどのようになっていますか。
- (2) 厚生労働省の「発達障害者支援施策の概要」によりますと、都道府県に設置された発達障害者支援センターで普及啓発、支援を実施するとのことですが、本町との関わり、実績はどうなっていますか。